

薬事情報センターに寄せられた質疑・応答の紹介（2014年12月）

【医薬品一般】

Q：Q熱とは？（薬局）

A：Q熱（Q fever）は、リケッチア科に近縁のコクシエラ属のコクシエラ・バーネットィー（*Coxiella burnetii* : *C. burnetii*）による人獣共通感染症である。Q熱の名は、1937年にクイーンズランドで発見されたので Queensland fever や Query fever（不明熱）に由来する。第4類感染症に指定され、診断した医師は直ちに最寄りの保健所に届け出なければならない。

感染動物	マダニ、シラミ、ハエ等が媒介し、ウシ、ヒツジ、ヤギ、犬、猫、野鳥等が感染するが、感染動物はほとんど不顕性感染である。
ヒトへの感染経路	主に感染動物の排泄物の乾燥粉塵の吸入による経気道感染である。まれに未殺菌の生乳や生肉を摂食して感染することもある。ダニやヒト-ヒト感染はごくまれ。 <i>C. burnetii</i> は、他のリケッチア科と同様に偏性細胞内寄生菌だが、細胞外の環境中でも熱や乾燥、消毒剤や紫外線等に対して抵抗性が強いので、ヒトへの伝播にダニ等の媒介は不要である。 ヒトへの感染性が極めて強く（細菌1個で感染）、バイオテロに利用されやすい。
症状	感染しても約半数は不顕性感染で、多くは予後良好である。急性Q熱は、約2～3週間の潜伏期の後、悪寒戦慄を伴う急激な発熱（38～40℃）、頭痛、筋肉痛、全身倦怠感等のインフルエンザ様症状を呈する。1～2週間で治癒するが、2～10%は心内膜炎や動脈炎、肝炎等を呈する慢性Q熱に移行する。海外では、急性Q熱が回復後しばらくして倦怠感、不眠、関節痛等が現れ、数ヶ月～十数年間持続し、慢性疲労症候群と診断された症例がある。
治療	テトラサイクリン系抗菌薬が第一選択薬で、その他、ニューキノロン系やマクロライド系、クロラムフェニコール等も有効である。 （急性Q熱）発症から3日以内に投与すると一般的に効果が高い。 <i>C. burnetii</i> は網内系細胞に長期生残すると考えられるため、症状改善後も2～3週間の投与が望ましい。 （慢性Q熱）テトラサイクリン系を中心にニューキノロン系、クロロキン等の併用を数年間以上の長期にわたって継続することが推奨されるが、予後が悪く、数年にわたる投薬が行われても十分に効果が得られないこともある。慢性Q熱への移行を防ぐため、早期からの積極的な抗菌薬投与が推奨される。

【安全性情報】

Q：イチジクの葉は、光毒性反応を起こすことはあるか？（薬局）

A：イチジク（無花果）はアジア原産のクワ科の落葉低木で、葉は光感受性の強いソラレン類（psoralens）の psoralen、5-methoxypsoralen（5-MOP、bergapten）等を含むため、光毒性反応を起こす可能性があり、以下の報告例がある。

- ・葉を煎じたものを日焼けローションとして塗布した2名（25歳男性、36歳女性、イタリア）が日光に3～8時間暴露後、やけど、水疱が生じて医療機関を受診、加療により回復した。
- ・3歳と6ヶ月の姉妹が、あせもに効果があるとのことで、自宅の庭でイチジクの葉40枚の煮汁を入れたプラスチックプールで真夏の炎天下に水浴びをした。翌日に妹の顔に色素沈着を伴う紅斑、体幹四肢にⅡ度熱傷に相当する強い紅斑とびらんを広範に認め、輸液管理とドレッシングにて加療した。また、水浴びを見ていた母親（27歳）の下肢にもプールの水がかかり、線状に色素沈着を伴う紅斑を認めた。

Q : 患者が個人輸入シアクュテイン™ (ACCUTANE) を飲んでいたが、成分は何か？ (医師)

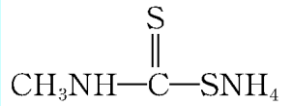
A : 成分はイソトレチノイン (ビタミンA誘導体)。日本では未承認で、米国等で難治性ニキビの治療に使用されており、他にソトレット™ (SOTRET)、アムネスティーム™ (AMNESTEEM)、クララビス™ (CLARAVIS)、イソトロイン™ (ISOTROIN) 等の名称で販売されている。妊娠中の女性が服用した場合に、胎児への催奇形性のおそれがあり、また、重大な精神症状 (うつ、幻覚、幻聴、自傷行為、自殺企図等) の副作用を生じるため、米国食品医薬品局 (FDA) は、インターネットや個人輸入により入手しないよう注意喚起している。厚労省もホームページの「個人輸入において注意すべき医薬品等について」の中で注意喚起している。

(FDAの一般消費者向け情報)

- ・妊娠している人、妊娠予定のある人、または服用期間中に妊娠する可能性のある人、授乳中の人は服用しない
- ・服用期間中とその前後1ヶ月間は妊娠しない、性行為をする場合は避妊する
- ・服用中は献血しない 等

Q : 農薬のNCS™の中毒情報は？ (薬局)

A : NCS™ (N-メチルジチオカルバミン酸アンモニウム) は、ジチオカーバメート系のカーバム剤で、土中で水に触れてメチルイソチオシアネート、硫化水素、二硫化炭素 (CS₂) を発生し、殺菌・殺虫・殺線虫・除草効果を示す。

構造式	
毒性機序	① 生体内でメチルアミンとCS ₂ となる。菌体内の金属とキレート結合し、SH酵素系を阻害する (カーバメートという名がつくが、カーバメート系殺虫剤と違い、コリンエステラーゼ阻害作用はない) ② アセトアルデヒド脱水素酵素阻害作用 (アンタピュース作用を有する。曝露後、アルコール飲料の摂取は2週間避ける)
毒性	人体に対する毒性は比較的低い ラット (経口) LD ₅₀ : 雄 412mg/kg、雌 402mg/kg
中毒症状	経口: CS ₂ が発生するので、中毒症状はCS ₂ 中毒に類似 大量服用の場合: 消化管に対する刺激が強く、悪心、嘔吐、腹痛、下痢が起こり、体外排泄が自然に行われる。また、腎炎症状として顔面のむくみや血尿を起こす。その他、運動失調、過剰興奮、めまい、衰弱等 皮膚症状: 発疹、掻痒感、アレルギー性皮膚炎 (太陽光線により増悪) 眼症状: 角膜炎、結膜炎 呼吸器症状: 咽頭痛、咳嗽、喀痰
処置	大量服用の場合: 胃洗浄、吸着剤や下剤の投与、輸液、対症療法を行う。酒類、牛乳、油脂は投与禁忌 (吸収を早めて毒性を高める) 皮膚症状: 副腎皮質ステロイド軟膏塗布、抗ヒスタミン薬の投与。皮膚をアルコールで拭かない 眼症状: ヒアレイン™点眼液、フラビラン™眼軟膏、抗菌薬点眼薬

Q : 金属のスズ (Sn) アレルギーの患者に注意が必要な食物は何か? (薬局)

A : 金属アレルギーには、金属に接触して発症する金属アレルギーと、食物や歯科金属等に含まれる微量金属が口腔粘膜や腸管から吸収されて発症する全身型金属アレルギーがある。全身型は摂取制限により症状が軽快する。スズを含有する主な食物は以下のとおり。

穀類	小麦胚芽、キビ(精白粒)、そば(生)、オート麦(玄穀)
豆類	きなこ、糸引き納豆、豆味噌、ささげ(全粒・乾)
種実類	ブラジルナッツ(煎り)、ヘーゼルナッツ(煎り)、ペカン(煎り)、マカデミアナッツ(煎り)、甘栗
野菜類	わらび(干し)、たけのこ(生)、とうもろこし、ポップコーン
きのこ類	干ししいたけ
藻類	あおさ(素干し)、塩昆布
魚介類	あさり(佃煮、缶詰・水煮)、はまぐり(味付け缶詰)、いか(するめ)、いわし煮干し、田作り、うなぎ(肝)
菓子類	チョコレート
嗜好飲料類	インスタントコーヒー
調味料・香辛料類	セイジ、タイム、パプリカ、カレー粉、クローブ、黒こしょう、山椒、ドライイースト